

(様式3号)

## 学 位 論 文 の 要 旨

氏名 福田 裕次郎

〔題名〕 鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性の予測

### 〔要旨〕

【背景】手術を施行したcT4鼻副鼻腔扁平上皮癌において、切除断端陽性と臨床的頸部リンパ節転移陽性(cN陽性)との関連性についてはこれまで十分な検討がされていない。それゆえ我々は手術を施行したcT4鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性と術前パラメータの関連について検討した。

【方法】2001年1月から2011年12月までに当科で手術を施行したcT4鼻副鼻腔扁平上皮癌患者41人を対象とした。カルテベースで後方視的に検討した。Kaplan-Meier法を用いて各種生存率を算出した。切除断端と術前パラメータ(cT分類、cN分類、術式、導入化学療法)との関連について単変量解析ならびに多変量解析を用いて分析した。

【結果】全症例の追跡期間中央値は52か月、5年粗生存率は67.5%であった。切除断端陽性例とcN陽性例はそれぞれ7例、9例であり、有意に生存期間の短縮を認めた。ロジスティック回帰分析ではcN陽性が切除断端陽性と有意に相関していた(HR:7.92, 95%CI:1.17-73.6,  $p < 0.04$ )。

【結語】我々は手術を施行したcT4鼻副鼻腔扁平上皮癌において、cN陽性と切除断端陽性が有意に関係することを単変量解析と多変量解析の両方で示した。cT4鼻副鼻腔扁平上皮癌において、術前のcN陽性が切除断端陽性を予測しうる可能性を示唆した。

### 作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

(様式9号)

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 1081 号	氏 名	福田 裕次郎
論文審査担当者	主査教授	池田 栄二	
	副査教授	渋谷 景子	
	副査教授	山下 裕司	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性の予測			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Prediction of Positive Surgical Margins in Sinonasal Tract Squamous Cell Carcinoma (鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性の予測)			
掲載雑誌名 Archives of Otolaryngology and Rhinology Vol.2 No.1 P.56 ~ 60 ( 2016年 10月 <input checked="" type="checkbox"/> 掲載・掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
<p>手術を施行した cT4 鼻副鼻腔扁平上皮癌において、切除断端陽性と臨床的頸部リンパ節転移陽性 (cN 陽性) との関連性についてはこれまで十分な検討がされていない。それゆえ我々は手術を施行した cT4 鼻副鼻腔扁平上皮癌における切除断端陽性と術前パラメータの関連について検討した。</p> <p>2001 年 1 月から 2011 年 12 月までに当科で手術を施行した cT4 鼻副鼻腔扁平上皮癌患者 41 人を対象とした。カルテベースで後方視的に検討した。Kaplan-Meier 法を用いて各種生存率を算出した。切除断端と術前パラメータ (cT 分類、cN 分類、術式、導入化学療法) との関連について単変量解析ならびに多変量解析を用いて分析した。</p> <p>全症例の追跡期間中央値は 52 か月、5 年粗生存率は 67.5%であった。切除断端陽性例と cN 陽性例はそれぞれ 7 例、9 例であり、有意に生存期間の短縮を認めた。ロジスティック回帰分析では cN 陽性が切除断端陽性と有意に相関していた (HR:7.92, 95%CI:1.17-73.6, p &lt; 0.04)。</p> <p>手術を施行した cT4 鼻副鼻腔扁平上皮癌において、cN 陽性と切除断端陽性が有意に関係することを単変量解析と多変量解析の両方で示した。cT4 鼻副鼻腔扁平上皮癌において、術前の cN 陽性が切除断端陽性を予測しうる可能性を示唆し、学位論文として価値があるものと認められた。</p>			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。